



京都 YWCA

3 2018

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

児童虐待防止のために私たちができること ～最前線の実情を通して考える～

2月10日、関西セミナーハウス活動センターと京都YWCA共催による、公開講座に参加しました。講師の津崎哲郎さんは、関西大学客員教授、全国里親会の副会長で、ご自身も養育里親をされています。これまで長く児童虐待防止協会や児童施設運営、施設退所児のアフターケア、十代後半の児童のシェルター運営等の活動に関わってこれ、その制度の構築にも関与され、まさに最前線の立場からのお話でした。

講演に先立ち、「制度の全体像を見ることを主に話す。課題だらけの制度をどう乗り越えるか、一市民として何ができるかを一緒に考えたい」と話されました。



津崎哲郎さんのお話に耳を傾ける参加者

児童虐待の実態

児童虐待には、身体的、性的、放置、心理的虐待などがあります。虐待通告のうち、約90%が面接指導（在宅支援）となります。約4%が施設等入所となりますが、2015年は約4万人のうち、里親委託は17%です。厚生労働省は、里親・グループホーム・施設の入所児童を三等分とする目標を掲げていましたが、2017年のビジョンでは乳幼児の75%、学齢児の50%を里親委託にするとの方針が出されました。現在、全結婚の4分の1が「再婚」で、その多くが連れ子がいるステップファミリー(*)です。義理の親子関係での子育ての難しさから重度の虐待が増加しているといえます。

* ステップファミリー…再婚によって血縁のない親と子が家族になること

対応・支援の仕組み

児童相談所は、虐待する保護者を指導しますが、それに応じない保護者も多くいます。その場合は一時保護の措置をとることになりますが、保護所が満杯であること、被虐待児と非行児の混合処遇などの課題があるそうです。児童虐待防止法では、児童相談所と保護者の二者関係で指導が規定されていますが、本来は二者のクッションとなるような調整機能が必要です。米国では、親権停止を視野に裁判所が関わることもよくあります。

ケース支援にあたって留意すべきこと

虐待は基本的に家族の中に病理があります。保護者の生活事情の立場に立って共に考える姿勢が大切です。家族全体の虐待メカニズムを把握し、解決を図ることが支援の基本であるべきです。施設入所児は「見捨てられ感」があり、更に面会者のいない子はつらい思いをしています。ベルギーでは全員に週末里親がいるそうです。

グループでの話し合いを受けて

講演を聞いた参加者は児童虐待防止に寄与するために、私たちに何ができるのかをグループに分かれて話し合い、以下のよう意見が出ました。

- 虐待は家族の問題であり、そこに早期の支援が必要である。
- 被虐待児には特定の大人との絆が求められるが、施設や児童相談所の職員は異動が多く、継続的な支援（又は関係構築）を行うのは難しいのが現状。そこを里親制度により補うこともできる。

まずは、市民一人ひとりが虐待の背景や支援の制度、里親の必要性などを正しく理解することが重要だと感じました。

(岩佐恭子)

2.11 集会「天皇制と女性」報告

2月6日夕方より京都YWCAで行なわれた2.11集会は、平日にもかかわらず30名近くの参加者が集い、賑やかな雰囲気であつた。建国記念日である2月11日に、この国のあり方について、問題を再確認するために毎年行なわれる2.11集会だが、今回は「天皇制と女性」というテーマで講師をお招きした。

講師は、国際基督教大学などで非常勤講師を勤めると同時に、日本キリスト教団なか伝道所の主任牧師でもある堀江有里さん。この国の近代化の流れのなかで、国民管理のイデオロギー構築と維持を担ってきた天皇制について、セクシャルマイノリティとしてのご自身の立場から批判的な見解を述べてくださった。昨今のメディアで取り上げられる天皇制の問題は、眞子さんの婚約をはじめとして、「結婚」や「家族」のモデルケースを国民に提供しているのではないかと。また、安倍政権下における「家族」や女性にまつわる法律施行などの動きは、異性愛主義を強制し、戦前の「家族国家」観を復活させるものである、と堀江さんは述べられた。このような状況下では、セクシャルマイノリティや、所謂「寄せ場」に集う日雇い労働者の多くを占める単身者たちは、天皇制下における「家族国家」観から逸脱していくことになってしまうという。

一方で、我々は少なからず天皇制を支えている現実があ

り、安倍政権が崩壊すれば解決する問題でもないとも述べられた。

堀江さん自身も、そうした矛盾を内に抱え、葛藤しながらも

現実に向き合っていることを話してくださった。私が印象的だったのは、矛盾を抱えながらも、それを否定することなく、天皇制の問題と、現実目の前に広がる問題、そしてご自身の信仰や信念とを繋げて言語化しようと試みられる彼女の姿勢だった。天皇制とは、「一木一草にも宿る」と言われるように、生活の隅々にまで浸透していて、なかなか普段の生活で意識しづらく、昨今は問題として扱うことすら難しくなりつつある。そんな状況の中で、天皇制の問題を自分の問題として引き付けて向き合い続ける人の言葉こそ、説得力のあるものとなるのだと感じた。堀江さんのお話を聞いて改めて、天皇制の問題を「自分の問題」として考え直すことの重要性を実感した会であった。

(片岡英子)



堀江有里さんのお話に関心する参加者

シリーズ ▶ やっています！こんなこと⑤

家庭で実践できるやさしいマクロビオティック



マクロビオティック（正食・せいしょく）を学び実践してきた体験をもとに食育活動をしています。正食との出会いは22年前の出産前後のトラブルです。現代栄養学に則って牛乳や卵を欠かさず食し、果物も野菜も、と栄養には人一倍気づかっていたのに体調は優れず、調べると不妊体質でした。ホルモン治療を受け授かった長男は斜頸で生後すぐから整形外科通い。私は母乳が出ず、体はいつも重だるく、赤ちゃんはいつも泣いていて、しょっちゅう熱を出す生活で母子共にくたくたでした。そんな時友人に「塩は何を使っているの？塩を変えてみて」とアドバイスされました。人は動物の一種、体内には赤い血（まさに血潮！）が流れ、そのナトリウムとカリウムの拮抗で健康をつかさどっていることが納得でき、それは食の大切さを伝える上で今最も重視していることのひとつです。

食えることは生きること。栄養素の分析では決して表せないいのちを俯瞰（みかん）してみることこそがマクロビオティックです。人は地水火風の大自然の中、動植物のいのちを頂いて生き、その関係は宇宙の秩序そのものです。その秩序を具現化したものが、マクロビオティック料理（正食）であり、季節

の食材を皮ごと根ごとすべていただきます。その実践で長男の体質はすっかり強化され、5年後には次男を自然妊娠し母乳育児を堪能できたことが、私の食育の原動力です。

京都YWCAでは若いお母さんたちと月に1回、正食料理を楽しみます。難しい技術はなく、珍しい食材も使いません。目的は子育てにちょっと息詰まった日常に風穴を開けること、子育ても家事も頑張るすぎるお母さんに楽しい気持ちで過ごしてほしい、日々のごはんはスペシャルなおいしいものは不要、心を込めて作ったら、ごはんともそ汁で素晴らしい！と実感してもらうことです。

合理化と効率性、そして経済優先まっしぐらの日本社会で、このような活動を支え、いつもお力添えくださる京都YWCAにとっても感謝しています。

(笹浪泉)



理論と実践を組み合わせる学ぶマクロビオティック料理教室の様子

今後のプログラム

◎第 96 回定期会員集会

■日 時：2018 年 3 月 3 日（土）13:00～16:30
 ■場 所：京都 YWCA ホール
 ■主 題：「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイによる福音書 5 章 9 節）

◎春休みキッズデイズ in ガジュマルの樹

■日 時：2018 年 3 月 26 日（月）・27 日（火）・28 日（水）10:00～17:00
 ■内 容：お友達とお出かけしたり、クッキングしたり、いろんな国や地域のことについて考えたり…。春休みの宿題もやりやす！スケジュールの詳細や持ち物などは申込手続き完了後にお知らせします。
 ■参加費：全 3 日参加 7,000 円 1 回参加 2,500 円
 兄弟・姉妹割引あり（2 人目から 25%引き）
 ■対 象：小学 1～6 年生
 ■定 員：各日 20 名 ※先着順 ■申 込：要

◎イースター集会

■日 時：2018 年 4 月 7 日（土）13:30～15:00
 ■場 所：京都 YWCA
 ■内 容：パレスチナ・オリーブ収穫ツアー参加から
 ■お 話：張善花さん ■参加費：500 円

◎YWCA フェスタ in 京都 オプショナルツアー
「京都を学ぶ、味わう」大人のための修学旅行

■日 時：2018 年 5 月 21 日（月）
 ■申 込：詳細は京都 YWCA 事務所までお問い合わせください。
 ■締 切：3 月 15 日（木）（希望者多数の場合はフェスタ参加者優先）
 ※3 月 15 日以降は京都 YWCA までお問い合わせ下さい。
 ①一日コース「京都の中にあるキリシタン史跡・朝鮮文化を巡るツアー」
 集 合：9:00 京都 YWCA
 解 散：17:00 頃 京都駅 参加費：7,500 円（定員 25 名）
 ②半日コース「伏見のふたつの顔を訪ねて～戦跡巡りフィールドワークへ～」
 集 合：9:30 京阪深草駅
 解 散：14:00 頃 伏見・桃山地区 参加費：3,500 円（定員 15 名）

ご寄付ありがとうございました。

2017 年 12 月 1 日から 2018 年 1 月 31 日
 寄付者一覧（敬称略、順不同）

一般寄付

森律子、上村愈巳子、出店都、畠中隆子、徳永朝子、山村茂代、岡佑里子、中川美佳子、木戸さやか、吉谷節子、永井靖二、中村和雄、船山昌代、匿名 2 名
 鳥山社会的経済協会、（社）西陣会、株田中工務店、日本キリスト教団室町教会オリーブの会、元京都 YWCA ティーンズ有志、（公財）京都 YMCA、日本キリスト教団京都御幸町教会

各指定寄付

＊運営委員会

平野富希、木戸理人、別所加恵

＊会館改修、メンテナンス募金

清水義、畠中隆子、有田孝子、安藤いづみ

＊クラス事業委員会

平野富希、木戸理人

＊親・子育て支援活動委員会

森律子、平野富希、寺田有古、御前明美、伊藤千佳子、親子ライブラリー有志

＊多文化共生委員会

岡昭男、神門佐千子、上内英子、安藤いづみ、林律、上原正正、菅原充子、北垣由民子、飯田奈美子、リンパヤラ スプレーニー、高山亨、岡佑里子、宇山進、大畑泰次郎、大畑京子、清水弥生、西原美都子、木戸さやか、仲本直子、常光和穂、杉山知子、上村愈巳子、高橋正子、小寺敬子、弘中奈都子、寺田有古、京都ノートルダム教育修道女会、平安女学院中高宗教センター、同志社中学校宗教部、希望の家カトリック保育園、ヌヴェール愛徳修道会京都修道院、日本キリスト教団京都上賀茂教会、同志社女子大学宗教部

＊日韓ユース交流プログラム

森律子

＊平和・環境委員会

弘中奈都子、平和・環境委員会、匿名 1 名

＊福島被災者支援プロジェクト

カトリック小山教会グループファチマ、クリスマスバザール来館者協力金

＊活動グループ連絡会

鍛冶富美子

＊クリスマスバザール協力

山本順三、ドナバン、ファーサイタイ日本、Health Science Institute UNICEF、橋比、じよいはなひろ、街京都オーガニックサークル、エルファ、サリュ、RAWA の会、食彩市場、パザールカフェ、ドーチェス ソニョス、藤井、三善製菓、オリーブホットハウス、竹村員代、宮川信子、中村金、イワジシ真珠街、ハーブセラピー、株ユニティー、株一粒社ヴォーリス、匿名 1 名

＊うららかふえ

木戸さやか、中口由梨、新見訓子、符田かおり

＊自立援助ホーム「カルーナ」（教育奨励金）

井上悦子、森律子、神門佐千子、中村美智子、吉村佳代子、畠中隆子、佐野千枝子、福嶋節子、手島千景、岡井奈都子、吉岡恵津子、寺田有古、伊原千晶、齊藤洋子、御前明美、有田佳子、富田恵津子、吉田紀子、市緑堂、日本キリスト教団京都上賀茂教会

＊自立援助ホーム「カルーナ」後援会費・寄附

三谷真一、森律子、岡佑里子、伊原千晶、木戸さやか、齊藤洋子、寺島（甲府 YWCA）、御前明美、山上義人、井上摩耶子、吉川文一、宮武美知子、別所加恵、匿名 4 名
 京都府更生保護女性連盟、平安女学院中高宗教センター、日本キリスト教団京都上賀茂教会、日本キリスト教団京都地区 京都南部地区、本福音ルーテル本郷教会 本郷学生センター

＊賛助費

井原主子、窪田左知子、佐伯昌和、株田中工務店

ふれあいの居場所食堂「うららかふえ」から
ボランティア募集のお知らせ

一緒にかふえて提供するランチやお菓子作りをしませんか？
 食堂ボランティア：火～土曜日 9 時 30 分～17 時
 お菓子作りボランティア：金曜日（月 2 回）10 時～16 時
 問い合わせ先：担当職員 御前（みさき）
 TEL：075-431-0351 FAX：075-431-0352
 e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp



京都市上京区武者小路通烏丸西入梅屋町 468
 電話 075-451-5178 FAX 075-431-7215
 ホームページ http://www.aritax.jp

1・2月／理事会報告

- 2017 年年度末見込みを確認し、2018 年度の予算を検討した。
- 5 月に開催の YWCA フェスタ in 京都の分科会に「多文化共生社会を目指して～異なる他者とのきずなから社会を考えよう」をエントリー。
- 地域 YWCA 連携事業（会員のリーダーシップ養成を考える）第 2 期に向けて協議。
- 自立援助ホーム「カルーナ」は、1 月に新年会・成人のお祝い会を開催。カルーナニュース 6 号を発行。
- サマリア館を含む京都 YWCA 建物を各種映像作品のための「ロケ地」として京都市メディア文化センターに登録。
- 第 96 回定期会員集会（3 月 3 日）の進行を協議、集会前後にマルシェを開催予定。

KYOTO YWCA No.543

2018 年 3 月号（3 月 1 日発行）

発行人 上村愈巳子

発行所 公益財団法人京都 YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電 話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

U R L http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義（公財）京都 YWCA

定 価 50 円